

「自治宝くじ」を活用して地域づくりを推進 地域でがんばる市民の皆さんを応援!



■「自治宝くじ」を活用して 地域づくりを推進

宝くじの受託事業収入を財源とした財団法人自治総合センターの「平成25年度自治宝くじコミュニティ助成事業」に本市の「郡山自治会」「斎川第1自治会」「大鷹沢第5自治会」の3団体が採択されました。今月は斎川第1自治会を紹介します。

■「斎川第1自治会」活動紹介

斎川第1自治会は、地区民の少子

高齢化が進む中でも、地域の清掃活動やふれあいの会、お花見などの行事を積極的に実施し、地区民が相互に協力し、住みよい地域づくりに取り組んでいます。

今回、この宝くじ助成事業を活用し、災害時用備品と地区集会所の備品を整備しました。

●助成額 210万円

●助成内容 テーブル、イス、テント、発電機、マンホールトイレなど
☎企画情報課 ☎22-1324



Interview

集会所を中心に地区民交流を



斎川第1自治会長
はたなか たかお
畑中多賀男さん

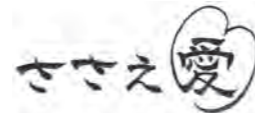
斎川第1自治会では、震災後、災害に強い地域づくりを推進するため、会報による防災の声掛けや避難訓練、炊き出し訓練を行ってきました。また、ひとり暮らしの高齢者世帯が増加し、移動手段がないために外出を控える方も増えています。そこで、地区民から身近な施設である集会所を地区の防災・交流の拠点にしようと話し合い、集会所の備品整備と、災害時用備品の整備を検討してきました。

今回の助成で整備した備品を活用し、さらに地区民の交流を深め、災害に強い地域づくり、安心安全な地域づくりを進めていきたいと思っています。

今回の助成で整備した備品を活用し、さらに地区民の交流を深め、災害に強い地域づくり、安心安全な地域づくりを進めていきたいと思っています。

高齢者等地域ささえ愛ネットワーク事業

～あなたの力を地域の力につなげよう～



■利用会員と協力会員募集中

ささえ愛事業とは、住民参加の有償ボランティアで高齢者などの在宅生活を支援します。利用会員、協力会員ともに事前登録が必要です。詳しくはお問い合わせください。

●生活支援サービスの内容

家事支援サービス(買い物や食事の準備、掃除、洗濯、話し相手など)、移動支援サービス(通院や買い物などの送迎)

●利用会員

市内に居住する65歳以上の高齢

者などで、家庭内で生活支援を受けることが困難な方。ただし、移動支援サービスの利用には対象条件がありますので事前にご相談ください。

●協力会員

市内に居住し、生活支援の手助けができる方。特別な資格は不要で、年齢も問いません。事務局主催の研修会を受講していただきます。

●登録料 年間1,000円

●料金 1時間当たり500円

※移動支援サービスは、サービス料のほか走行距離1km 20円加算。

■ささえ愛事業Q & A

Q 息子夫婦と暮らしていますが、2人とも帰りが遅いです。食事の買い物を手伝ってほしいのですが、同居でも利用できますか。

A 日中、家族の支援を受けられないのであれば、利用することができます。

■利用会員からの声

協力会員の方には、今まで自分では手の届かない棚の上などもきちんと掃除をしていただき、とても助かっています。

☎社会福祉協議会 ☎22-5210

高齢者が住み慣れた環境で安心して生活できるために 高齢者の権利擁護について考えましょう

在宅で介護が必要になった高齢者を看っていく家族の負担は、想像以上に大きいものです。認知症が進んだ高齢者介護は、「きちんと見てあげたい」という責任感や介護疲れ、経済的な辛さなど引き金になり、虐待につながってしまう可能性があります。虐待を未然に防ぐためにも、介護している方のストレスや負担を理解することが大切です。地域みんなで見守りや声掛けをして、明るい地域社会を築きましょう。

実際に、高齢者の虐待とはどんなことでしょうか。

次の①～⑤に該当していると思われることはありませんか？

①身体的虐待

たたく・つねる・蹴る・ベッドに縛り付けてたり、閉じこめたり、薬を過剰に服用させたりして、身体拘束をする。

②心理的虐待

悪口をいう・怒鳴ったりののりたりする・侮辱を込めて、子どものように扱ってしまう・高齢者の話しかけに対して、意図的に無視する。

③性的虐待

排泄の失敗から下半身を裸にして

放置する・本人との同意がない性的な行為またはその強要をする。

④経済的虐待

日常生活に必要なお金を渡していない。使わせない・本人の財産を無断で売却する・年金や預貯金を本人の意思・利益を無視して使用する。

⑤介護・世話の放棄・放任

入浴や身体拭きをせず臭がするほど(不衛生状態)にしている・手間がかからないように、食事や水分を充分に与えない・室内にゴミや汚物の片づけをしないで劣悪な環境で生活させる・忙しさや経済的な理由から、医療・介護サービスを受けさせない。

心当たりがある方、見かけたり聞いたりした場合は、一人で悩まずにご相談ください。

※病状や介護方法の知識不足などから、必ずしも高齢者虐待に当てはまらない場合があります。回数を重ねたり恒常的になってしまうことで最悪な状態につながりかねません。

●相談窓口・連絡先

長寿課 ☎22-1361

地域包括支援センター ☎22-1466

■『認知症』理解のための講座に講師を派遣します!

認知症を正しく理解して、認知症の方やその家族を地域で温かく見守る応援者になりませんか?

市では、「認知症理解のための講座」を開く地域・団体に無料で講師の派遣を行っています。認知症について理解を深め、安心して暮らせるまちにするため多くの皆さんの申し込みをお待ちしています。

●対象者 職場、学校、地域団体など
※おのおの10人以上

●所要時間 1時間～1時間30分程度(要相談)



※受講者には、認知症の支援者の証としてオレンジリング(ブレスレット)が贈られます。

☎地域包括支援センター ☎22-1466

キャンプで交流! 他県・他国の文化を学ぶ 第16回日本ジャンボリーにボーイスカウト白石第1団が参加

10月4日、ボーイスカウト白石第1団(八巻仁志隊長)所属のスカウト6人と指導者3人が市役所を訪れ、風間市長に「第16回日本ジャンボリー」(公益財団法人ボーイスカウト日本連盟主催)に参加してきたことを報告しました。このジャンボリーは、7月31日から8月8日までの9日間、野外キャンプ生活を通じて自然の大きな力を感じながら、他県や他国の人たちと交流を深めることを目的に、山口県山口市阿知須で開催され、53の国と地域から約15,000人のスカウトが参加。今回ジャンボリーに参加した団員は、「期間中、ゲリラ豪雨に見舞われ、テントを張り直すなど大変でしたが、他県や外国の人たちと交流できて楽しかったです。2年後に開催される世界スカウトジャンボリーにも参加したいです」と目を輝かせながら話してくれました。



▲市長を表敬訪問した白石第1団の皆さん